

三心を磨く

学校だより NO. 4
令和元年 5月15日(水)発行
須坂市立東中学校
文責：金井勝久(教頭)
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

◇◇ 5月校長講話！ 変化する社会 近未来社会とは…◇◇

～ 生徒たち一人ひとりに問い、共に考える校長講話 ～

5月15日(水)、雨上がりの清々しい空気を感じながら、「5月の校長講話」が行われました。学校長は、PTA総会の際に保護者の皆さんにご紹介した政府が示した「Society5.0」の映像を使って、生徒たちに「政府が考える近未来について」自分の考えを求めました。

先の入学式で、学校長は「3つのスイッチ(学ぶ心・思いやる心・鍛える心)」の講話を展開されましたが、今回はそのうちの1つ『学ぶ心』のスイッチに問いかけた校長講話となりました。

まず冒頭で「Society5.0」の映像をみた生徒たち、映像にみられる「ドローン宅配便」「AIが内蔵されたおしゃべり冷

蔵庫」「無人で動くトラクターやバス」などを目の当たりして驚きを隠しきれずに見入っていました。



「これが10年後の生活なのか…」「AIによって生活はこんなに変わるのか…」「すごい…」

体育館内にはそんな思いが広がり、生徒たちの驚きの空気に支配されました。学校長は映像に続いて、全校生徒に問いました。「映像のような世界、日本政府が考える近未来について、皆さんはどう考えますか?」です。生徒たちは考えていました。一人ひとりが自分の考え・答えを探していました。その真剣さ、自分に向けられた問いに対して考えようとする姿がありました。

しかし、『挙手』までには至りませんでした。全校が集まった中で、挙手し、自分の意見が語れる姿を期待していましたが、今回はありませんでした。(東中の課題として取り組みます)

そこで学校長は、「自分の回りの友だちとそれぞれの意見交換をしてみよう」と提案しました。

すると生徒たちは、近くの友だちに自分の考えや思いを積極的に話し出しました。1つのテーマについて、協同的に意見を言い合いながら学び合う姿がそこにありました。

時間にして約1分間でしたが、とても意欲的な姿がありました。

そして学校長が「未来が楽しみになった人はいるかな?」と笑顔で問いかけると、今度は1・2年生を中心にとっても多くの挙手が見られました。とても爽やかでした。

この反応、そして自分の考えを意思表示する姿とこの意欲がとても素晴らしかったです。(どんな問いに対してもこの姿を求めています)

人工知能や
ロボット等
に代替され
る可能性が
高い職業

- | | |
|----|------------------|
| 1 | 小売店販売員 |
| 2 | 会計士 |
| 3 | 一般事務員 |
| 4 | セールスマン |
| 5 | 一般秘書 |
| 6 | 飲食カウンター接客係 |
| 7 | 商店レジ打ち係や切符販売員 |
| 8 | 箱詰めや積み降ろしなどの作業員 |
| 9 | 帳簿係など金融取引記録保全員 |
| 10 | 大型トラック・ローリー車の運転手 |
| 11 | コールセンター案内係 |
| 12 | 乗用車・タクシー・バンの運転手 |
| 13 | 中央官庁職員など上級公務員 |
| 14 | 調理人(料理人の下で働く人) |
| 15 | ビル管理人 |
| 16 | 建物の簡単な管理補修係 |
| 17 | 手作業による組立工 |
| 18 | 幹部・役員の秘書 |
| 19 | 機械工具の調整を行う機械工 |
| 20 | 在庫管理事務員 |

楽しみな未来…でも、
自動化が進む社会→人の役割は？
新しく生まれる時間→何をするの？



「便利さによって新しく生み出された時間を、みんなはどのように使うのかな？」と、さらに続けて問いました。

「う～ん…」多くの生徒たちは、隣の友だちと顔を見合わせたり、首をひねったり、体育館の天井をみつめたりなど、自分の中で考えを巡らす表情やしぐさをみせました。

本気で悩み、本気で考え、それぞれが真剣に自分の考えや立場を模索しました。

そして最後に「今、世の中で求められている力は何か？」と題して話され、それは「情報編集力であり、思考力や判断力、表現力などの総合的なもの」とまとめられ、「正解は1つではない」「答えは1つではない」と結びました。さらに、その実践として【例題】として「片手で食べられる『かき氷』を考案せよ」といった問題を出されました。「マジ～」 「へえ～」という笑顔に包まれた生徒たちの反応があり、すぐに隣の友だちに話しかけ、自分の考えを得意そうに話す姿もありました。

続いて「人工知能やロボット等に代替される可能性が高い職業」というまとめの画面が出ると、「ヤバいじゃん」「仕事なくなっちゃうよ」というささやきが出ました。

さらに便利になる未来がとても楽しみとなった生徒たちが、仕事がなくなっていくという現実を知り、その考えが大きく揺さぶられた瞬間でした。ここが「学び」の瞬間でもあります。

そして学校長は、藤原和博さんの著作である『10年後、君に仕事はあるのか？』という本を紹介しながら、「未来は楽しみであるけど、人の役割はどうなるのかな？」

情報編集力＝思考力・判断力・表現力
「正解は一つではない」の具体的なイメージ

【例題】

片手で食べられる「かき氷」を考案せよ



- ・普通は器に盛ってある氷を左手で持ち、右手のスプーンで食べます。これだと、どうしても両手がふさがるので、食べながらスマホは使えない。
- ・君なら、どうやって「かき氷」を片手で食べられるようにしますか？

【例題】

片手で食べられる「かき氷」を考案せよ

- ・いろいろな答えが考えられそう
だから、正解は一つではない
- ・一人で考えても限界がある
- ・他の人と、たくさんアイデアを出し合えば、答えのヒント(種)が見つかる可能性が大きくなる
- ・何かと何かをドッキングすれば、新しいものが生まれるかも



【例題】

片手で食べられる「かき氷」を考案せよ

赤城乳業という会社は、社員の間でアイデアを長い時間、たくさん出し合い、新商品を開発しました。

それが…



… みんなで考えてみてください。
そして、もっと違う新商品も考えてみよう。

学校長は、今、叫ばれている「活用する力」とは具体的にどんな力なのかを生徒たちに話しながら、「言われたことをするだけではなく、『自分で考えたことをする力』を育むために、思考力や判断力。表現力を磨いていくこと」の大切さを生徒たちに伝えました。

さて、「片手で食べられるかき氷」の考案、赤城乳業のアイデアは？そして生徒のアイデアは？ご家庭でも話し合ってみてください。生徒に問い、自分の考えをもつ校長講話、6月が楽しみです。